

## JB2XA?…新コールサインの割り当てが決まったか?

JJ1SXA/池

JB2XA は、新コールサインではありません、実験局に免許されたコールサインです、地域番号 2 は、アマチュア局では「東海」ですが、実験局では、「関東」「信越」の局です。(プリフィックス JB は実験局、JC は保留と言う規定がありました)

アマチュア局のプリフィックスは、JA の後、なぜ JH、JR になったかについて、CQ 誌 1984 年 8 月号「特集 ウソ?ほんとーハム雑学インフォメーション」の中の「JQ1 の次のプリフィックスは JR1 ではない」に次のように書かれていました。(読まれたでしょうか)  
(以下引用)…プリフィックスは、JA1 からスタートし、その次のものを決めるとき、アルファベット順であれば JB1 になるのですが、国際電々の実験局がすでに使用しており、それでは、何にするか?ということで関係者で協議の結果、JH1 が決まりました。

JH1 シリーズのコールサインが終了したときも、CW で打ちやすいもの、実験局に使用されていないもの等々を考慮して、JR1 が決まりました。

JR1 シリーズのコールサインが終了する頃には、アマチュア局数もどんどん増加し、その都度、どれにしようか?などと考慮することはなく、アルファベット順でやろうということで、その後は JE、JF、JG、……JS の順で現在に至っています。(引用終り)

JA の次の JH、JR は、「Ham」の H で JH、「Radio」の R で JR となったというのは、巷間語られるところですが…

現在の状況は知りませんが、2004 年 9 月時点では、JB2XA(三鷹市)、JB2XC(厚木市)、JB2XD(川崎市幸区)、JB2XL(千代田区)、JB2XM(千代田区)が、KDDI(株)インマルサット・システムの人工衛星局・展示用として、また、JB2AB(小笠原村)が同社の通信実験用として免許されています。

「周波数の割当原則」は 1957 年に制定されたのですが、その巻末に「別表第 XI・呼出符号及び呼出名称の割当基準」というのが付いていて、それにより上記免許となったのでしょ、現在は全面改定され「識別信号の指定基準」として規定されています。

再割り当てで、JA1 のコールサインが小学生にも割り当てられ、輝かしい JA1 コールの権威が落ちたなあと感じるのは私だけでは無いと思いますが如何でしょう?

1アマの試験も、欧文 60 字/分、和文 50 字/分の送受信が無くなり、欧文 60 字/分の受信のみ、次は、欧文 25 字/分の受信のみ、挙句の果ては、CW の実技が無くなり、学科も多肢選択式(択一式、補間式、正誤式)と簡易化され、小学生1アマも誕生、こちらも随分価値が下がったと嘆くのは、愚痴でしか無いか?

一時期、現 4 階級から、1アマの上に「総合」、4アマの下に「特殊」と言う級を作り、6 階級にする案が浮上、検討されたが、何故か立ち消えになった、故 JA1OJZ 局が「和文 CW を受けて合格した昔の1アマには、パワー等の条件は同じで良いから、特級とか、特 1 級とかの別名称を与えろ」と言っていたのを思い出す…懐かしいなあ。